

「文化と美術の私の観かた」

信州自遊塾事務局メンバー
彫刻家 丸山雅秋



今回、事務局メンバーとして本欄を担当します彫刻家の丸山です。

コロナウイルスにより全世界の人間活動の停止は、多くの人々に経済的な困難を強いております。この中、各国の政府により様々な経済支援が行われています。

特に、文化活動に携わる芸術家への支援は、日本に比べ欧州、中でもドイツの支援は、羨ましいものがあります。理念として、文化(文化活動)が生活に必要な不可欠なものとして、政治家を筆頭に認識されているためです。

文化とは、狭義の意味での文化だけでなく、人間が産まれてから死ぬまでの行動様式を指します。もし、便利さだけを追求していくなら、四畳半と万年床に行き着くのではないのでしょうか。そこから生まれる製品は美しく気持ちがよく長く使いたいもののでしょうか。料理もプラスチックの皿で食べるのと、皿に盛りその周りも整えて食べるのでは、同じものでも気持ちも美味しさも異なります。

文化的豊かさは、想像力豊かなイメージを育み、「よい」を生み出すことが出来る基礎です。

文化(芸術・音楽・文学演劇など)は活力や豊かさを生活に与えると共に、経済にとっては、私達の生活の中から工業製品が生まれ、そこに住む人々の文化を反映して生産されます。

ヨーロッパに行くと古い街並みの中に現代建築が調和されて建てられていて、気持ちの良い何か懐かしい空間を作り出しています。今という時間にありながら過去の時間も共にある空間、そのような空間は気持ちがよく過去・現在・未来と重層的な豊かさを生み出してくれるのではないのでしょうか。

美術の世界も、歴史に残って来たものは、重層的時間的な世界を持っているようです。

日本の美術大学では、私の時代は実技が大きなウエイトを占めていました。しかし、イタリアでは、実技と同様のウエイトを美術史が占めていました。表現する者は、社会の中に生き、社会から影響を受けながら分析を行い、自分の言葉として表現しなければなりません。その為、歴史を習います。その時代の背景と美術様式の成り立ちの分析を習いました。

例えば、抽象表現とダダイズムは、第一次世界大戦によって起こった文明批判(1915年チュー

リヒ)でした。歴史上はじめて大量殺人が行われた事によって、果たして私たちの文明は正しかったのか？と、クエションが付いたことによりルネサンス以来の古典が否定され、それ以後、具象表現もシュールレアリスム(超現実主義)的な表現を帯び不安な世界を表しています。抽象表現は、材料の言葉を借りて表現するため、より構造的であり世界観を多くの場合表していると思います。



丸山雅秋さんの作品「存在-関係」

知識は、より深く楽しむために必要ですが、多くの良いものを見るのが、質を見ることが出来、楽しむことが出来る基本です。かつては日本でも、床の間があり季節により絵を楽しんだ生活がありました。ヨーロッパでは現在でも、一般家庭でもポスターでない絵が飾られ、友人が客として家庭に呼ばれ食事を共にすることが一般的です。コロナウイルスを機会に働き方が見直されバランスの良い生活が意識されたと願います。

2020年5月16日

◇ミニコラム 事務局メンバー紹介◇

富取寛晴(とみとりひろはる)



愛知県安城市出身 大学卒業後、東京・名古屋で銀行員として12年間勤務。2007年(34歳)に安曇野での生活に憧れ、家族4人で安曇野市に移住し、長野県企業に転職。趣味は断然、山歩き。

事務局には、5年ほど前に事務局の人から声を掛けられたことがきっかけで参加し始めました。日常生活では交流範囲が仕事や家庭の人間関係ばかりに成りがちですが、自遊塾の事務局は多彩なメンバーが集まっています。そして事務局運営に当たっては社会への忖度、打算、お金の損得勘定は全くなく、各自が“これからの生き方を考える”上で、理想と考えるもの、重要だと思えるものを出し合い、それをメンバーみんなで掘り下げて形にしていく、それは楽しい充実した作業です。

事務局のメンバー構成からすると、私(47歳)は若手の部類です。私のような勤労者層の方々、一緒に活動しませんか！